平成２２年度研究成果報告書《教育課程》

学校名（がっこうめい）	北海道教育大学附属函館中学校（ほっかいどうきょういくだいがくふぞくはこだてちゅうがっこう）

校 長 名：相田　幸男

所 在 地：北海道函館市美原３－４８－６

電話番号：0138-46-2233

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法の工夫改善に関する研究

研究対象教科等	音楽

≪研究主題≫

自分なりの音楽を追究し，豊かに表現する生徒の育成～「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に関する学習指導の工夫～

【研究の要点】

1　研究主題設定の理由

研究指定1年次である平成21年度は，新学習指導要領の趣旨を具現化すべく，言語活動に着目した教科指導のあり方と音楽科の主な改善事項にあげられている「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に関する実践・研究を基軸に主題を設定し，「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」についての題材開発もあわせて行った。平成22年度はこれまでの実践・研究の成果と課題を踏まえ，研究指定2年次としてのまとめをするとともに，全国の公立中学校の参考となるような先行研究を行ってきた。

2　研究の重点

①　言語活動に着目した指導

◇具体的な取組→言語活動のカテゴリー化と「言語に関する能力の習得と活用一覧」の作成

◇取組の概要

・言語活動を【感受・表現】（体験から感じ取ったことを表現する），【収集・整理】（情報の収集や取り出しを行い，整理する），【記録・伝達】（事実を正確に理解し，記録・伝達する），【解釈・説明】（概念・法則・意図等を解釈し，説明したり，活用したりする），【評価・論述】（情報を分析・評価し，論述する），【構想・実践】（課題について，構想を立て実践し，評価・改善する），【討論・協同】（互いの考えを伝え合い，自らの考えを発展させる）の7項目に分類

・全教科の言語活動を俯瞰できる一覧表を作成

②　「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に着目した指導

◇具体的な取組→「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に関する題材開発と題材の指導計画の作成及び見直し

◇取組の概要

・指定1年次

「我が国の伝統的な歌唱」のうち，伝統的な声の特徴を感じ取れるものとして，謡曲「高砂」と「杜若」を主な歌唱教材とした題材「謡曲に親しもう」を開発

・指定2年次

表現と鑑賞のより一層の関連を図るべく，「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」についての指導事項や指導計画の見直しを行い，題材名を「謡曲に親しもう」から「能に親しもう」と改めた。

3　成果と課題

成果としては，「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に着目した学習指導について〔共通事項〕を基軸に，表現と鑑賞との関連を図るなどの題材構成及び学習指導を工夫することによって，生徒の様相の変化及び記述内容からも「我が国の伝統的な歌唱や鑑賞」に対する生徒の意識に変化が見られ，我が国の音楽文化に対する理解を深めること，我が国の伝統や文化を尊重する態度を育てることができた。また，言語活動を充実する観点から音楽科の学習に即した言語に関する能力の習得と活用を図るとともに，知覚・感受し，思考・判断し，表現するといった一連の学習過程を重視することにより，主体的に学習に取り組み，豊かに音楽表現したり自分なりに価値を判断したりする力を育てることができた。

課題としては，各教科間を貫いて共通に用いることのできる言語に関する能力を生徒自身が意識し，日々の学習の中でそれらを活用していくための指導の改善を図ること。「我が国の伝統的な歌唱」に関する表現教材について，より一層，生徒や地域の実態に即した「伝統的な声の特徴を感じ取れる」教材の積極的な開発。より主体的に生徒が取り組む鑑賞活動を目指して，表現活動と鑑賞活動のより明確な関連付けを図り，鑑賞を通して得られた自分の感情の変化や自分にとっての価値（大切さ）について批評文にまとめる等，他者に拡げさせていくことについての指導の改善等があげられる。

Ⅰ　研究指定校の概要

1　学校・地域の特色及び実態

本校は，函館市全域と近隣町から生徒を募集していることから通学区域が広く，各地域との関係

はやや疎遠である。保護者は教育熱心で学校に対して協力的である。ほとんどの生徒は，高い学力と基本的な生活習慣が身に付いている。９割近い生徒が部活動に加入し，近年，陸上部の 400mR 全国優勝や音楽部の３年連続東日本学校吹奏楽大会出場をはじめ，優秀な成績を収めている。また，研究推進校としての附属学校の役割を担うために，全教員が地域の教科サークル等に所属し，助言や研鑽に努めている。

２　学校の概要（平成 22 年 4 月 5 日現在）

	１年	２年	３年	計
学級数	３	３	３	９
生徒数	１１７	１２３	１１７	３５７

教員数１８名

Ⅱ　研究の内容及び成果等

１　研究主題等

(1)　研究主題

自分なりの音楽を追究し，豊かに表現する生徒の育成～「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に関する学習指導の工夫～

(2)　研究主題設定の理由

本校では，平成２０年度に「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」という学校研究主題のもとで，移行措置期間における３年間の研究計画を立て，副主題を「言語活動に着目した教科指導」とし，音楽科における言語活動の在り方についての実践・研究を重ねた。研究指定１年次である平成２１年度は，さらに新学習指導要領の趣旨を具現化すべく，音楽科の主な改善事項にあげられている「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に関する実践・研究を基軸に主題を設定し，「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」についての題材開発もあわせて行った。平成２２年度はこれまでの実践・研究の成果と課題を踏まえ，研究指定２年次としてのまとめをするとともに，全国の公立中学校の参考となるような先行研究を行ってきた。

(3)　取組体制

本校研究部

（副校長・研究部長・複数の研究部員で構成）

↓

研究協議会（定例・本校全教員で構成）

↓・渡島教育局，函館市及び渡島の公立中学校との連携

校内授業研究会（本校にて全教科実施）

↓・北海道教育大学との共同研究

教科研究紀要の作成と教育研究大会の実施

・日常の授業実践例の提示

(4)　２年間の主な取組

平成21年度	・新学習指導要領における音楽科の改善事項の把握 ・「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に関する題材開発と題材の指導計画の作成（４月～５月） ・研究実践の理論構築，研究紀要作成（６月～７月） ・本校研究会指導案作成（８月～９月） ・教科調査官訪問授業公開，事後指導（10月） ・教育研究大会授業実践発表，研究会の反省と全教科での実践交流（11月） ・次年度研究に向けた学習会，中間報告会に向けた資料作成（12月～１月） ・文部科学省での中間報告会（２月） ・中間報告書の作成，「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に関する指導事項と指導計画の見直し（３月）
平成22年度	・音楽科に即した言語活動を含む年間指導計画の見直しや言語活動系統表の改善・更新，「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に関する題材開発と題材の指導計画の作成，校内授業研究会の実施及び見直しをした指導計画に基づく授業実践（４月～７月） ・指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証，教育研究大会の実施（８月～10 月） ・指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証， ・新学習指導要領の趣旨を具現化するための指導方法の工夫改善に関する研究のまとめ（11 月～３月）

２　研究内容及び具体的な研究活動

(1)　研究仮説

本校音楽科では，前述した研究主題の下，２つの仮説を設定し，検証にあたった。

①　音楽科の学習に即した言語に関する能力の習得と活用を図るとともに，感性を高め，思考・判断し，表現する一連の学習過程を重視することにより，主体的に自分なりの音楽を追究するための力を育てることができる。

②　「我が国の伝統的な歌唱や鑑賞」に着目した学習指導を展開することにより，我が国の音楽文化に対する理解を深め，我が国の伝統や文化を尊重する態度を養うことができる。

(2)　言語活動に着目した指導

ここでの具体的な取組としては，言語活動のカテゴリー化と「言語に関する能力の習得と活用一覧」の作成を行った。本校では，言語活動を【感受・表現】（体験から感じ取ったことを表現する），【収集・整理】（情報の収集や取り出しを行い，整理する），【記録・伝達】（事実を正確に理解し，記録・伝達する），【解釈・説明】（概念・法則・意図等を解釈し，説明したり，活用したりする），【評価・論述】（情報を分析・評価し，論述する），【構想・実践】（課題について，構想を立て実践し，評価・改善する），【討論・協同】（互いの考えを伝え合い，自らの考えを発展させる）の７項目に分類した。

そして，これらの分類にしたがって，全教科の言語活動の関連が俯瞰できる「言語に関する能力の習得と活用一覧」を作成した。

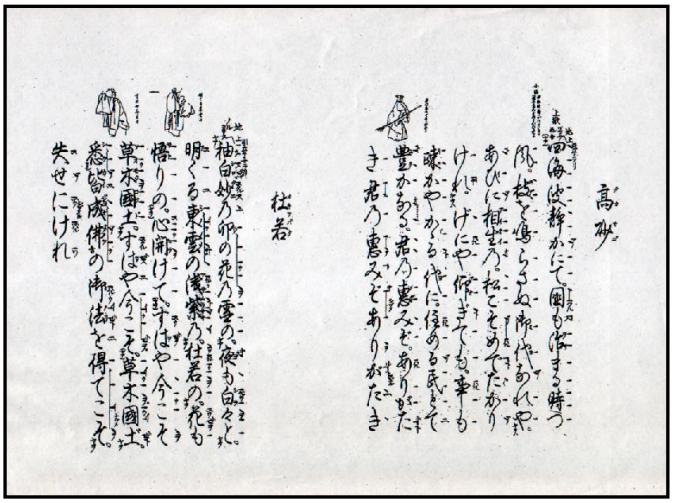
また，授業を構想する際には，上記の７項目のうちのどの言語活動に属するのかを明らかにした上で，「目的」への認識（何のために言語活動をするのか），「対象」への認識（何を思考・判断・表現するのか），「方法」への認識（どのように活動・表現するのか），「場面」への認識（どのような状況で活動を行うのか）といった４つの認識を明確にもつこととした。さらに，教科特有の語彙に着目し，具体的な事象や前後の脈絡の中で習得し活用できるよう配慮した。

(3)　「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に着目した指導

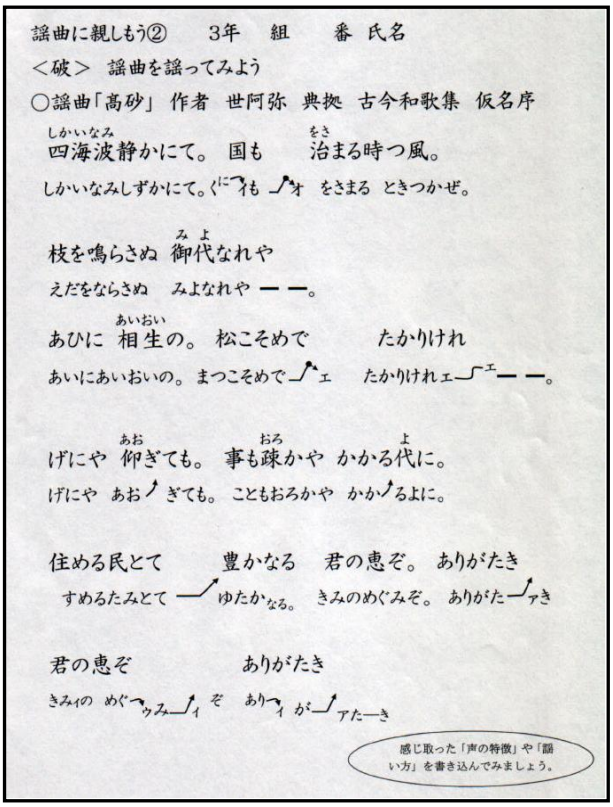
ここでの具体的な取組としては，「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に関する題材開発と題材の指導計画の作成及び見直しを行った。

指定１年次に題材開発した「謡曲に親しもう」では，我が国の伝統的な歌唱のうち，伝統的な声の特徴を感じ取れるものとして，謡曲「高砂」と「杜若」を主な歌唱教材とした。（謡曲とは，能の詞章を囃子の伴奏なしに能から離れて謡うことをいう。）

「謡曲に親しもう」の授業の様子



謡本「高砂」と「杜若」


謡曲に親しもう②　3年　組　番 氏名

＜破＞ 謡曲を謡ってみよう

○謡曲「高砂」 作者 世阿弥 典拠 古今和歌集 仮名序

四海波静かにて。 国も 治まる時つ風。

枝を鳴らさぬ 御代なれや

えだをならさぬ みよなれや ー ー。

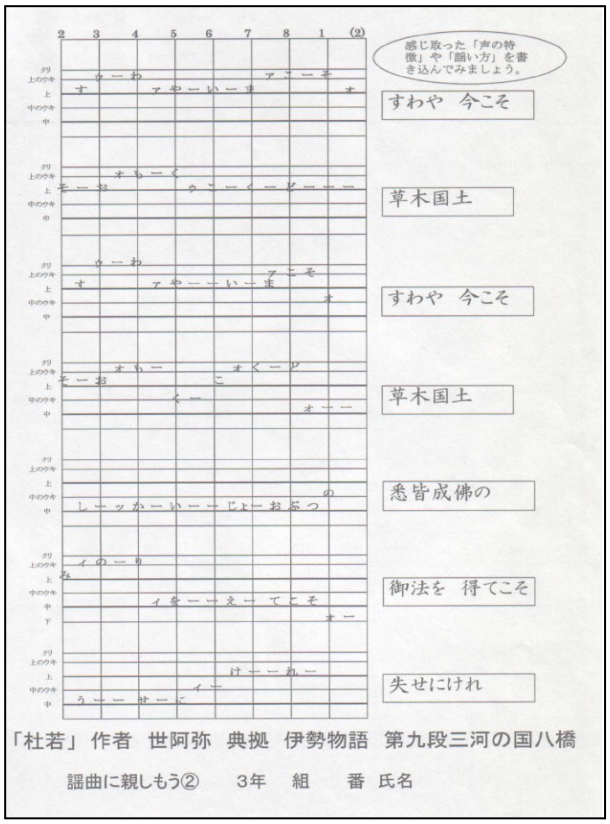
あひに 相生の。 松こそめで たかりけれ

げにや 仰ぎても。 事も疎かや かかる代に。

住める民とて 豊かなる 君の恵ぞ。 ありがたき

君の恵ぞ ありがたき

感じ取った「声の特徴」や「謡い方」を書き込んでみましょう。

楽譜の工夫①「高砂」

楽譜の工夫②「杜若」（一部）

ここでは，新学習指導要領の「A表現」の指導事項のうち，「ア　歌詞の内容や曲想を味わい，曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。」「イ曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して，それらを生かして歌うこと。」について，〔共通事項〕の音色，リズム，旋律，構成を窓口に授業を展開した

それらを踏まえた上で，２年次では，表現と鑑賞のより一層の関連を図るべく，「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」についての指導事項や指導計画の見直しを行い，題材名を「謡曲に親しもう」から「能に親しもう」と改めた。本題材では，我が国の伝統的な舞台芸能である「能」を取り上げ，〔共通事項〕を窓口に，能の音楽の特徴を知覚・感受しながら，謡曲を創意工夫して音楽表現する活動や，解釈し価値を考えて鑑賞する活動を通して，能のよさや美しさを味わわせていく。

「能に親しもう」の授業の様子①（鑑賞活動）

また，「能」の鑑賞を通して，自分の感情の変化や自分にとっての価値についても批評文にまとめ，他者に拡げさせていく。具体的には，１年次と同様に歌唱のア，イの事項を扱うとともに，「B鑑賞」の「ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと。」と「イ　音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して，鑑賞すること。」を加えて扱い，それぞれ〔共通事項〕の音色，リズム，速度，テクスチ

ュア，強弱などを支えにしながら，音楽表現と鑑賞の両面から学習を展開させていくこととした。

大まかな題材の展開は以下の通りである。

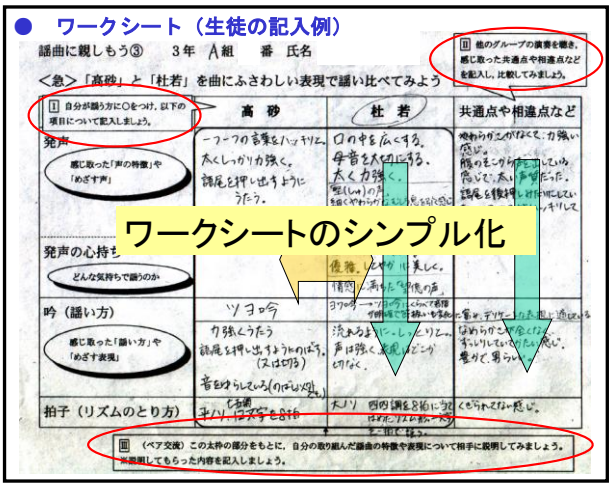
第１時には，能の音楽の特徴や，能の音楽以外の特徴を知覚・感受させる。第２時には，能の音楽の特徴や，能における音楽以外の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解させる。

「能に親しもう」第２時の学習の様子

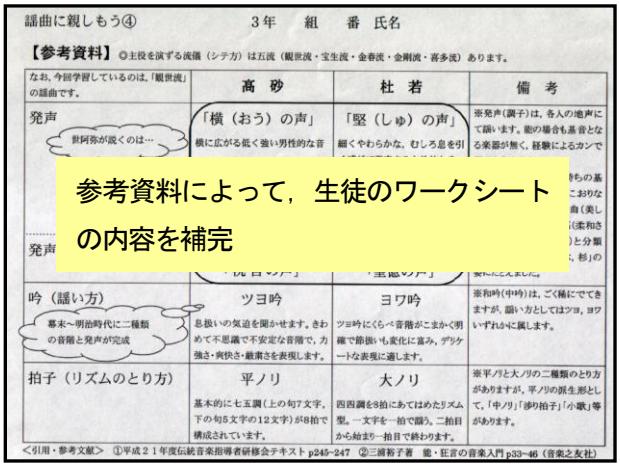
第３・４時には，謡曲の声の特徴や謡い方等を感じ取らせ，グループ練習・演奏とペア交流をさせる。ここでは，練習・演奏・交流を通して謡曲の特徴や音楽表現について，他者に音楽に関する言葉を用いて伝える。（言語活動の工夫）

第５，６時には，能『船弁慶』の各場面の批評の交流を基に能のよさや美しさを自分なりにまとめ，味わって鑑賞させる。

あわせて，本題材では，能に親しませるべく，楽譜の工夫やワークシートの工夫（シンプル化）も行った。



ワークシートの工夫①



ワークシートの工夫②

「能に親しもう」の授業の様子②（表現活動）

題材「能に親しもう」を終えての生徒の感想（一部抜粋）としては，

・最初は能に対して何も思わなかったけれど，能のことを深く知っていくうちに，能はすごいなと思うようになった。それは，やはり自分で能の謡曲をうたったことで，価値が変わったのだと思う。実際に自分でやってみて，すごく難しかった。そのように難しいものを伝えるというのは，やはりすごいと思うし，感動的なことだと思う。

・文化を保つことは大切だと思う。だから，自分もその文化を伝えていかなければいけない一員だということをしっかり理解しなければいけないと思う。

・日本の伝統芸能である能は，私にとって誇らしいものになったと思います。謡いできたことは，よい経験になりました。一見，シンプルに見えますが，謡い方，動き，装束，面等の違いで変わっていくのがすごいなと思いました。

● 生徒の実態・第３学年（事後アンケートから）
※昨年度実施分

１）「我が国の伝統的な歌唱や音楽」に学習前より興味がありますか

興味がある　98%（事前 58%）

２）「我が国の伝統的な歌唱」を学習前より聴いてみたいですか

聴いてみたい　94%（事前 68%）

３）「我が国の伝統的な歌唱」を謡いたいですか

謡いたい　78%（事前 42%）

事後アンケートの結果

３　考察及び成果と課題

①　言語活動に着目した指導については，分類した【感受・表現】【収集・整理】【記録・伝達】【解釈・説明】【評価・論述】【構想・実践】【討論・協同】の言語活動に関わる７項目が，どれも等しい割合で実践されるということはなく，比重の軽重があるということが分かった。また，単に「言語活動」という括りで実践していくのではなく，何に関する言語活動なのかを意識し，計画することで，生徒に身に付けさせたい力に直接働きかけるような学習活動を構想することができた。さらに，音楽科における言語活動の工夫として，〔共通事項〕を含む音楽科特有な語彙を，知覚・感受し，思考・判断し，表現するといった一連の学習活動において効果的に習得・活用させた。このことが，学習対象への理解を深めるとともに，思いや意図をもって豊かに音楽表現したり，自分なりの価値を見だしながら鑑賞したりする力の育成に結び付いた。

課題としては，各教科間を貫いて共通に用いることができる言語に関する能力を生徒自身が意識し，日々の学習の中でそれらを活用していくための指導の改善を図ること等があげられる。

②　「我が国の伝統的な歌唱及び鑑賞」に関する題材については，〔共通事項〕を基軸に，発声（調子），拍子（リズムの取り方），吟（謡い方），構成（言葉の反復）等を手掛かりに謡曲の特徴を感じ取り（知覚・感受する），曲にふさわしい表現を考えて（思考・判断し，それを表す）謡う（音楽表現をする），価値などを考えて（思考・判断し，それを表す）味わって聴く（鑑賞する）といった学習活動を展開した。このように，表現と鑑賞との関連を図るなどの指導を充実させることによって，我が国の伝統的な歌唱や鑑賞に関する学習活動を効果的に展開することができた。

「能に親しもう」ペア交流の様子

課題としては，「我が国の伝統的な歌唱」に関する表現教材の開発があげられる。１年次に開発した「謡曲」の他にも，生徒や地域の実態に即した「伝統的な声の特徴を感じ取れる」教材，即ち，義太夫節，長唄，郷土の民謡等についても，積極的に教材化及び題材開発に努める必要がある。また，より主体的に生徒が取り組む「我が国の伝統的な音楽」の鑑賞活動を目指して，表現活動と鑑賞活動のより明確な関連付けを図ること，鑑賞を通して得られた自分の感情の変化や自分にとっての価値（大切さ）について批評文にまとめる等，他者に拡げさせていくことについても指導の改善が必要と考える。さらに，生徒が「我が国の伝統音楽」を理解する手立てとして，楽譜の工夫や，ワークシートの工夫（シンプル化）についても考慮したい。

平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

学校名（ふりがな：こくりつさいたまだいがくきょういくがくぶふぞくちゅうがっこう）	国立埼玉大学教育学部附属中学校

校 長 名：大保木　輝雄

所 在 地：埼玉県さいたま市南区別所４－２－５

電話番号：048-862-2214

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究	
研究対象教科等	音楽

≪研究主題≫

生徒の思考力・判断力・表現力を育てる指導法の研究
～言語活動等を重視した学習活動～

【研究の要点】

研究成果として，本校音楽科がとらえる「思考力・判断力・表現力」と「生徒に求める言葉」を分類，定義し，「思考力・判断力」と「生徒に求める言葉」を関連付けることで，各場面における思考力・判断力・表現力を明確にすることができた。

具体的な取組として授業実践をし，授業の展開における「育てたい思考力・判断力」と「生徒に求める言葉」を明らかにした。生徒の「思考力・判断力」を高め，生徒が知覚・感受したこと，考えたこと，感じ取ったことや味わったことを適切な言葉で表すことができるように，ワークシートや授業展開の工夫を行った。また，思考・判断し，自己の思いや意図を音楽表現につなげるための指導の工夫を行った。

さらに，新学習指導要領に基づき，年間指導計画の見直しを行った。その際，領域・分野ごとに3年間の見通しを持ち，系統的な題材設定の工夫をした。

以上のような，実践を行うことによって，思考力・判断力・表現力が高まると同時に，学習内容に対する生徒の理解が深まり，音楽表現の技能などの高まりを確認することができた。

Ⅰ　研究指定校の概要

１　学校・地域の特色及び実態

(1) 本校の性格の一つに，教育に関する理論及び実践についての研究・実証を行うことがあげられる。

(2) 学校全体で教科の特質に即した言語活動を重視し，思考力，判断力，表現力を育てる研究を行っている。

２　学校の概要（平成 22 年 4 月 5 日現在）

	１年	２年	３年	計
学級数	4	4	4	12
生徒数	167	174	174	515

教員数　28　名

Ⅱ　研究の内容及び成果等

１　研究主題等

(1) 研究主題

生徒の思考力・判断力・表現力を育てる指導法の研究
～言語活動等を重視した学習活動～

(2) 研究主題設定の理由

① 新学習指導要領において，生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から，生徒の言語活動を充実することが求められていること。

② 本校生徒の実態として「何となくこのように思う」などのように，音楽を感覚的にとらえることが多く，感じ取ったことを音楽の構造などと結び付けて音楽活動をするまでには至っていないこと。

③ 生徒が自ら音楽を形づくっている要素とそれらが生み出す特質や雰囲気などに関心をもち，その音楽の特徴を知覚・感受できるように，他者と関わり合いながら共有できるようにしたいということ。

以上３点の理由から，研究主題を設定した。

(3) 取組体制

校長→副校長→校内教頭・主幹教諭→研究部→音楽科の連携体制を組み，学校全体で研究に取り組んでいる。本校独自の教育研究を行い，昨年度より「新学習指導要領に基づく学習指導法の改善」という研究主題に取り組んでいる。

(4) ２年間の主な取組

平成21年	○新学習指導要領による年間指導計画の作成（４月） ○本校研究協議会研究授業「鑑賞」（５月） ○研究協議会の課題と成果の整理（６～７月） ○研究授業「伝統的な歌唱・鑑賞」（10月）

度	○研究授業の課題と成果の整理，中間発表準備（11月） ○指定事業研究協議会，研究授業「創作」（２月） ○研究授業の課題と成果の整理（３月）
平成22年度	○年間指導計画の作成と見直し（４月） ○本校研究協議会「伝統的な歌唱」（５月） ○研究協議会の課題と成果の整理（６～７月） ○研究授業「創作」（10月） ○研究授業の課題と成果の整理，発表準備（11～12月） ○指定事業研究協議会（１月） ○２年間の研究のまとめ

２　研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究の重点

① 本校音楽科がとらえる「思考力・判断力・表現力」と「生徒に求める言葉」を分類，定義する。

② 授業の実践をし，授業の展開における，「育てたい思考力・判断力」と「生徒に求める言葉」を明確にする。

③ 「我が国の伝統的な歌唱・鑑賞」「創作」の３年間の系統的な実践をし，内容ごとに各題材の配置を検討し，各学年の系統図を作成する。そのことにより，３年間を見通して身に付けたい力を内容ごとに研究する。（６ページ目　参考資料参照）

(2) 本校のとらえる「思考力・判断力・表現力」

音楽科における表現力は，思考・判断していることと一体的に，それを言葉などで表す力としての表現力と，表現領域において，音楽表現をするための技能を身に付け，それを生かしながら思考・判断したことを音楽で表す力としての表現力（音楽表現）の両者がある。「思考力・判断力・表現力」の表現力とは，思考力・判断力を表出した力であり，教師が生徒の思考力・判断力を見取ることができる表現力である。その意味で，本校では，前者の思考・判断していることと一体的に，それを言葉などで表す力を「思考力・判断力・表現力」の表現力ととらえる。

本研究では，表現力を言葉によるものに焦点化し，生徒に求める言葉について分類し，具体的な場面で活用を図っていく。

さらに，「思考力・判断力」については，生徒が感性を働かせて感じ取ったことを基に，思考・判断し，音楽表現につなげたり，音楽を味わう過程を重視する観点から，本校では，以下のように定義した。

① 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力

② 曲想を感じ取り，音や音楽に対する自己のイメージを膨らませて，どのように音楽表現で表すかについて考え，判断する力

③ 音楽のよさや美しさを味わい，自分にとっての価値を見いだす力

このことを踏まえ，思考力・判断力を生徒が具体的に言葉でどのように表しているかを考察する。

(3) 生徒に求める言葉

音楽の授業に即した言葉の在り方について考察した。生徒に求める言葉を次のように分類し，定義した。

① 「すごい」「きれい」「おもしろい」など自分の感情を表す言葉

② 「○○のような」のようにイメージを表す言葉

③ 「(要素）が○○なので，△△のように感じた」など，音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわりに関する言葉

④ 自己のイメージと音楽表現を結び付ける言葉

⑤ 自分にとっての価値を表す言葉

これらの①や②は自分の主観が入っている言葉である。その言葉をどうしてそう感じたのだろう，どのように表現したらよいのだろうと聞き返せば，③や④のような言葉が出てくる。聞き返すことによって，生徒はより深く知覚・感受することになり，音楽をより豊

かに感じたり，表現の工夫や音楽表現の技能の向上につながると考察する。

本研究では，これらの５つの言葉の関連や，これらの５つの言葉と本校音楽科がとらえる「思考力・判断力」を関連付けながら，進めていく。

(4) 具体的な授業の展開

本校音楽科がとらえる「思考力・判断力」と「生徒に求める言葉」に基づく授業実践を行った。題材名と学習活動，「育てたい思考力・判断力」と「生徒に求める言葉」，思考力・判断力・表現力を見取るワークシートの工夫を以下に示す。

＜実践１＞　「我が国の伝統的な歌唱・鑑賞」

○題材「和楽器の響きと我が国の伝統的な歌唱に親しもう」　第２学年

１．「この道」の声の音色に注目して，ベルカント唱法による歌い方，地歌箏曲による歌い方の２つを比較聴取する。

(1) 育てたい思考力・判断力

・音楽を形づくっている音色を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力

【本校がとらえる思考力・判断力との関連①】（音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力）

(2) 生徒に求める言葉　本校の定義との関連

①　「すごい」「きれい」「おもしろい」など自分の感情を表す言葉

②　「○○のような」のようにイメージを表す言葉

２．「姫松・若竹」の模範演奏を聴き，地歌箏曲らしくするにはどのように歌ったらよいかを考える。

(1) 育てたい思考力・判断力

・声の音色や旋律の特徴を具体的に知覚・感受し，どのようにすれば模範演奏のように歌えるのかを考え，判断する力

【本校がとらえる思考力・判断力との関連②】曲想を感じ取り，音や音楽に対する自己のイメージを膨らませて，どのように音楽表現で表すかについて考え，判断する力）

(2) 生徒に求める言葉　本校の定義との関連

④　自己のイメージと音楽表現を結び付ける言葉

３．箏組曲「初音の曲」を鑑賞し，曲の特徴を感じ取り，地歌箏曲を味わう。

(1) 育てたい思考力・判断力

・音楽を形づくっている声と箏の音色，リズム，速度，旋律を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力

【本校がとらえる思考力・判断力との関連①】（音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力）

・地歌箏曲のよさや美しさを味わい，自分にとっての価値を見い出す力

【本校がとらえる思考力・判断力との関連③】（音楽のよさや美しさを味わい，自分にとっての価値を見い出す力）

(2) 生徒に求める言葉　本校の定義との関連

③　「(要素) が○○なので，△△のように感じた」など，音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわりに関する言葉

⑤　自分にとっての価値を表す言葉

(3) ワークシートの工夫

箏に合う歌声を考えよう

１　２種類の「この道」を聴いて，それぞれの**「声の音色」**の特徴を書こう。

１曲目	・裏声　・洋風な感じ　・声がゆれて震えている　・優しい感じ・なめらか
２曲目	・地声　・和風な感じ　・声がゆれない　・力強い　・ガラガラ声 ・一音ずつはっきりしている　・渋い声　・鼻にかかっている声

２　模範演奏を聴いて，どのような歌い方で歌えば良いと思いますか。
＜解答例＞〇〇が△△のようになっていたので，□□を（のように）して歌えばよい。

＜模範演奏を聴いての意見＞
・声の音色が普段話している声に似ていて，力強いので，地声でお腹から声を張り上げる感じで歌うとよい。
・言葉が，一つ一つはっきり聞こえたので，口をおおげさに動かして歌った方がよい
・伸ばした音をはっきりと切っていたので，余韻を残して切らない。
・産字と，次の旋律の間があいていたので，産字を大切に歌い，息をたくさん吸って次を歌い出す。
＜模範演奏を視聴しての意見＞
・背筋をしっかりと伸ばして，目を見開いて歌う。
・口をしっかりと開けて歌い，前の発音の口の形で次の言葉を歌わない。

３
「　初音の曲　」を聴いて，次の視点で曲の特徴を書いてください。
⑴下のキーワードをもとに，学習したことを踏まえて感じたことを書こう。
＜解答例＞　　音色が〇〇だから△△のような感じがした。

音色（箏・歌）　　リズム　　速度　　旋律　　その他

＜音色に関する事項＞
・声が太く低くしっかりとしていて，地を這うような感じだった。
・箏の音色は一音一音力強い音色だったが，声の音色によく似て，一体感があった。
＜リズムに関する事項＞
・最初の方は拍が取りづらくて，何拍子か分からなかった。曲が進むにつれてリズミカルになってきて聴きやすかった。箏と歌のリズムが全く違っていて，よく一人で演奏できるなあと感じた。
・歌と箏のリズムが違っていて，それぞれ不規則になっているように聴こえたが，それぞれが上手く重なり合っていた。
＜速度に関する事項＞
・曲が進むにつれてだんだんと早くなり，緊張感が増してきて，最後にまたゆっくりとなり，曲が終わった。急激な速度の変化がおもしろいと思い，独特の雰囲気をつくっていた。
＜旋律に関する事項＞
・歌の旋律の中に産字がたくさん使われていて，楽譜に音符で表せないような音やはっきりしない音程があり，おもしろいと思った。
・日本独特の産字や旋律の波打つ感じが新鮮で良かった。
・歌は息継ぎを素早く行って，ギリギリまで力強く伸ばしていて，ゆったりとした独特の時間の空間が生み出されているような感じがした。
＜その他＞
・平調子自体が日本の独特な感じを出していて不思議だなあと感じた。
・箏の様々な奏法が，歌をより際だたせているような感じがした。

⑵地歌箏曲を聴いて，分かったこと・気に入ったことを書こう。上記のキーワードを生かしながら「音楽的に〇〇なので△△だと思った」というように音楽的な根拠を必ず入れること。

・私たちが学習している「姫松・若竹」とは違って，箏と歌の旋律が全然違っていて驚いた。全く違うのに，お互いの音色が混ざり合い，柔らかい雰囲気が出ていてとてもよかった。
・速度が遅いところが私は好きです。大きくゆったりとしたところを地声で歌うと雄大な感じがします。音の切り方や発音の仕方，声のふるわせ方，響きなど日本特有なものでとてもよいと思いました。
・地歌箏曲を聴いて，先の展開が読めないと思いました。合唱曲やクラシックの曲ならばリズムやテンポも分かりやすくて聴きやすいけれども，地歌箏曲はとても難しい音楽だなあと感じました。自分自身の国の音楽をあまり聴いたことがなかったり，しっくりこないということは問題だと思います。これを機に，日本の音楽も少しずつ聴いてみたいと思いました。

＜実践２＞　「創作」

〇題材「コード進行を基にして旋律をつくろう」

第２学年

１．旋律の音と音のつながり方について「順次進行」「跳躍進行」を比較聴取し，それぞれの旋律の特質や雰囲気を感じ取る。さらに，上行進行と下行進行の特質や雰囲気の違いについても感じ取る。

(1) 育てたい思考力・判断力

・音楽を形づくっている旋律，テクスチュアを知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力

【本校がとらえる思考力・判断力との関連①】

（音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力）

(2) 生徒に求める言葉　本校の定義との関連

③　「(要素) が○○なので，△△のように感じた」など，音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわりに関する言葉

２．自分のイメージに近付けるには，どのような旋律にしたらよいか考える。

(1) 育てたい思考力・判断力

・音のつながり（旋律）の違いを具体的に知覚・感受し，自己のイメージに近付けるために，どのような旋律にしたらよいかを考え，判断する力

【本校がとらえる思考力・判断力との関連②】（曲想を感じ取り，音や音楽に対する自己のイメージを膨らませて，どのように音楽表現で表すかについて考え，判断する力）

(2) 生徒に求める言葉　本校の定義との関連

④　自己のイメージと音楽表現を結び付ける言葉

(3) ワークシートの工夫

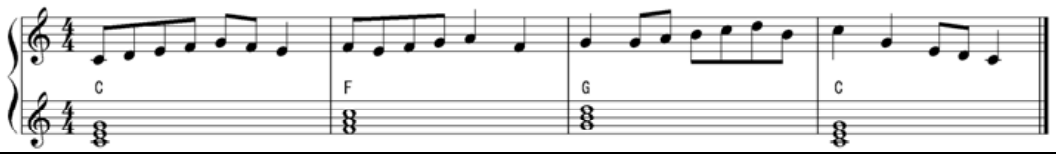
コード進行を基に旋律をつくろう

１　次の２つの進行（音のつながり）を聴き，感じ取ったことを書こう。
＜解答例＞音のつながり（旋律）が○○なので△△の感じがする。

・音のつながりが隣の音に行っているので，なめらかな感じがする。(順次進行)
・音の高さが一気に高くなっているので，音楽に変化が生まれている感じがした。(跳躍進行)
・音が高くなっていくので，音楽が盛り上がっている感じがした。(上行進行)
・音が下がっているので，落ち着いていく感じがする。(下行進行)

２　二人で次の事項について話し合いながら旋律をつくろう。
○音楽的にどのようなイメージをもって表現したいのかを考えよう。
〈例〉○○のような曲にしたいので，音のつながりを△△のように工夫しました。

・なめらかに流れるようにし，３小節目で一番盛り上がり，最後は落ち着いた感じの曲にしたいので，旋律の前半は上行進行を使い３小節目で最高音を使い，最後は下行進行にして旋律を工夫しました。

３　「自分たちのイメージ」と「音のつながり」をかかわらせて旋律をつくろう。

３　研究の成果と課題

成果としては，本校音楽科がとらえる「思考力・判断力・表現力」と「生徒に求める言葉」の分類，定義，さらに「ワークシートの工夫」等をすることで，「思考力・判断力」と「生徒に求める言葉」を関連付けて考察することができ，各場面で生徒に育てたい思考力・判断力・表現力を明確にすることができた。

また，同じ内容ごとに，各題材を系統的に配置することで，各内容で３年間を見通した育てたい力を明確にすることができた。

課題としては，本研究では「思考力・判断力・表現力」の表現力を言葉によるものに焦点化して研究を進めたが，生徒が試行錯誤しながら創意工夫して表現する音楽活動の過程で，思考や判断する場面もあり，思考・判断を音楽で表すことも考えられる。その意味で，音楽で表現している内容について，思考・判断の面からとらえることと，技能の面からとらえることの棲み分けや両者の関連などについて研究を深めていく必要性を感じた。

今後は，自分なりのイメージや表現意図を表すための技能を身に付けることと，創意工夫して表現することとを一体的に育てながら，各観点に沿った評価の研究を進めていく。

＜研究の重点③　参考資料＞

「我が国の伝統的な歌唱・鑑賞」系統図

	第１学年 ＜日本の郷土の音楽・民謡に親しもう＞	第２学年 ＜和楽器の響きと我が国の伝統的な歌唱に親しもう＞	第３学年 ＜長唄・歌舞伎に親しもう＞
我が国の伝統的な歌唱	＜学習内容＞ ○日本の民謡の発声や声の音色の特徴を知覚・感受し，それらを生かして歌う。 ○日本各地の民謡を聴き，人々と音楽の関係を考え，実際に歌う。 ○秩父音頭・ソーラン節・谷茶前などの特徴を感じ，発声に気を付けて歌う。 ＜育てたい思考力・判断力＞ ○音楽を形づくっている声の音色を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力。	＜学習内容＞ ○地歌箏曲の特徴や発声の特徴を知覚・感受し，どのように音楽表現につなげればよいかを試行錯誤する。 ○地歌箏曲に応じた発声や言葉の特性を理解して，それらを生かして歌う。 ＜育てたい思考力・判断力＞ ○音楽を形づくっている声の音色を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力。 ○声の音色や旋律の特徴を具体的に知覚・感受し，どのようにすれば模範演奏のように歌えるのかを考え，判断する力。	＜学習内容＞ ○長唄の発声や歌い方の特徴を感じ取り，表現を工夫して歌う。 ○長唄における三味線の役割と長唄の関係を理解し，それらを意識しながら歌う。 ○三味線に合わせて，「間」を感じながら歌う。 ＜育てたい思考力・判断力＞ ○音楽を形づくっている声と三味線の音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア（声と三味線の関係）を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力。 ○音色とテクスチュアの特徴を具体的に知覚・感受し，どのように工夫すれば長唄らしい演奏になるのかを考え，判断する力。
鑑賞	＜日本の民謡＞ ○日本各地の民謡に親しみ，それぞれの音楽的な特徴を感じ取り，人々の生活と関連させて聴く。 ＜育てたい思考力・判断力＞ ○音楽を形づくっている声の音色，旋律を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力。 ○人々の生活と密接に関わっている日本の民謡のよさや美しさを味わい，自分にとっての価値を見い出す力。	＜地歌箏曲　初音の曲＞ ○地歌箏曲を鑑賞し，箏と声の音色やそれぞれの旋律のずれ，産字や速度の変化を知覚・感受し，楽曲全体を味わう。 ＜育てたい思考力・判断力＞ ○音楽を形づくっている声と箏の音色，リズム，速度，旋律を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力。 ○地歌箏曲のよさや美しさを味わい，自分にとっての価値を見い出す力。	＜歌舞伎　勧進帳＞ ○歌舞伎における長唄の役割と効果を理解して聴き，歌舞伎を味わう。 ○総合芸術としての歌舞伎のよさを味わう。 ＜育てたい思考力・判断力＞ ○音楽を形づくっている声と三味線の音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア（声と三味線の関係）を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力。 ○歌舞伎や長唄のよさや美しさを味わい，自分にとっての価値を見い出す力。

「創作・指導事項ア」系統図

	第１楽年 ＜和音構成音を使って旋律をつくろう＞	第２学年 ＜コード進行を基にして旋律をつくろう＞	第３学年 ＜旋律の特徴とコード進行のかかわりを生かして旋律を工夫しよう＞
創作	＜学習内容＞ ○ハ長調のⅠ→Ⅴ→Ⅰの和音進行を基にして，和音構成音を用いて旋律をつくる。 ○自己のイメージに合わせて，音のつながりとリズムを工夫して旋律をつくる。 ＜育てたい思考力・判断力＞ ○音楽を形づくっている旋律，リズム，テクスチュアを知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力。 ○和音進行と和音構成音の関わりを知覚・感受し，自己のイメージに近付けるために，どのような旋律にしたらよいかを考え，判断する力。	＜学習内容＞ ○Ｇ→Ｄ→Ｅｍ→Ｃ→Ｇ→Ｄ→Ｃ→Ｇのコード進行を基にして旋律をつくる。 ○順次進行・跳躍進行・上行進行・下行進行の旋律の特徴とそれらが生み出す曲想の違いを知覚・感受し，自己のイメージに合わせて，試行錯誤しながら工夫して旋律をつくる。 ＜育てたい思考力・判断力＞ ○音楽を形づくっている旋律，テクスチュアを知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力。 ○音のつながり（旋律）の違いを具体的に知覚・感受し，自己のイメージに近付けるために，どのような旋律にしたらよいかを考え，判断する力。	＜学習内容＞ ○旋律の特徴を感じ取り，自己のイメージに合わせてコード進行を考える。 ○旋律の特徴とコード進行の関わりを生かして，より自己のイメージに近付けるために，試行錯誤しながら工夫して旋律をつくる。 ＜育てたい思考力・判断力＞ ○音楽を形づくっている旋律，リズム，テクスチュアを知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受する力。 ○旋律とコード進行の関わりを知覚・感受し，自己のイメージに近付けるために，どのような旋律にしたらよいかを考え，判断する力。